

スウェーデン教会における子育て支援活動としての ベビーソングの意義

The Significance of “Baby Song” as a Child-Rearing Support Activity in the Swedish Church

吉次豊見*

Abstract

The Swedish Church plays a role in supporting childcare in each region. Therefore, in this study, we conducted a field survey of the efforts at S Church in Sweden, and clarified their characteristics and practices through comparison with Öppen förskola, a public childcare support facility. “Baby Song,” which is a particularly popular program, focuses on children’s songs and songs that are different from church music, but it reflects the Swedish church’s music initiatives, including the choir, that have been carried out to date. And music experts are often in charge. As a result, it has become clear that it not only strengthens the bond between children and parents, but also provides a place to enjoy high-quality, rich music.

キーワード：スウェーデン、子育て支援、スウェーデン教会、ベビーソング

1. 研究の背景と目的

日本における「地域子育て支援拠点事業」は子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供するものである¹⁾。その形の一つとして「子育てひろば」は全国的に展開され、妊娠、出産、乳幼児期の子育て家庭が気兼ねなく集まり交流できる場、乳幼児期の子ども達が安心して、のびのびと遊べる場など²⁾として身近な存在になっている。ひろばでは基本的には子どもの自発的な遊びや子ども同士のかかわりあいを促すよう、親子が自由に参加し遊ぶ場であるが、施設によっては定期的に親子で楽しめるイベントを行っている。例えば、筆者が勤務する大学内にある子育て支援ひろばでは父親の交流イベントである「パパトーク」や「ベビーマッサージ」など、外部講師を招いたものが行われている。またその他の施設でも多く実施されているものが音楽遊びである。上記と同様に専門の音楽講師を招いてのコンサートや、音楽ワークショップ、楽器の演奏体験、リズム遊びや、在勤のスタッフ・職員による簡易な歌遊びなど多様な形で開催されている。このような乳幼児期の音楽

遊びは発達やコミュニケーション能力の向上に寄与するとされ、子育て支援の場における音楽遊びやコンサートなどの効果や実践例などについてはすでに多くの研究で報告されている。例えば中村・丸田(2017)は打楽器遊びやリトミックなど活動的な遊び、親子での触れ合い活動が強く望まれていることを明らかにしている³⁾。

親子での音楽遊びは、子育て支援政策の評価が高いスウェーデンの Öppen förskola (公開就学前教育校：日本の子育てひろばのような施設)において「ベビーソング」「ベビーミュージック」等と呼ばれ取り組まれている⁴⁾。スウェーデンは幼保の制度が一体化されており、手厚い育児休業制度の下、概ね1歳半前後から förskola (就学前教育校)に入園する。2歳児になると90%近い子ども達が förskola で過ごす、入園前の子どもや保護者が利用するこの Öppen förskola は基本的には登録なしで参加が可能なものである。Öppen förskola は förskola 同様に自治体立のもの、民間のものもあり、民間運営の中にはスウェーデン教会によるものが含まれる⁵⁾。筆者が2022年に実施したスウェーデンでの調査の際、Öppen förskola だけではなく、地元の教会で行われ

* Toyomi YOSHITSUGU 関西学院大学教育学部助教

る「ベビーソング」に参加しているという声を多く聞いた。スウェーデン教会によると Öppen förskola として登録はせずに、それに類する活動が多く行われているとされるが⁶⁾、この単独で行われるベビーソングもその活動の一つと位置付けられるものである。

筆者の研究をはじめ⁷⁾、泉 (2001) や大谷 (2007) による Öppen förskola の研究において、ベビーソングの取り組みは一部紹介されているものの^{8) 9)}、具体的な流れやその意義について言及されたものはない。特に教会は礼拝における賛美歌だけではなく、聖歌隊を中心とした大人や児童の音楽活動やコンサートが開かれるなど音楽は一定の位置を占めており、教会と音楽は親密性が高い。そのような中で、子育て支援の一つとしてベビーソングがどのように取り込まれ、具体的にどの楽曲がどのような形式・形態で歌われているのかについての報告や調査は見られない。

そこで本研究では教会における「ベビーソング」と呼ばれる親子の音楽遊びの取り組みについて、その詳細を現地調査から明らかにしていくことを目的とする。その際、公設公営の Öppen förskola でのベビーソングと比較することによって、教会における独自性や意義、そして förskola との繋がりについて検討する。

2. 方法

2-1 調査資料について

Svenska kyrkan (スウェーデン教会) が公表している資料から全国的な現状の把握を行う。また Öppen förskola に関する基礎的な資料として Skolverket (学校庁) や各自治体の状況を整理する。特に本研究では音楽活動・ベビーソングを中心に検討するため、スウェーデンの förskola での音楽遊びなどとの継続性についてナショナルカリキュラムも参考にする。

2-2 調査施設の選定について

本研究ではスウェーデンの地方都市 A 市を調査の対象とした。A 市は近年、子育て世帯も増加傾向にあり、förskola も増設される自治体であるが、A 市には Öppen förskola として登録されているものは市が運営している 1 園のみである。そのため Öppen förskola に類する活動が各教区の教会で行われてい

る。また公営の A-öppen förskola と教会の活動と両方に参加する親も多いため、本研究の調査対象自治体として選定した。

実際の活動内容について調査する教会は、A 市街の中心部に位置する S 教会とした。S 教会は A 市内の教会の中でも最も大きく、様々な取り組みを行っている教会である。スウェーデンは 6 月末～8 月中頃まで夏のバカンス期間であり、Öppen förskola も休業する。そのため、新年度のスタートとなる 2023 年 8 月末に現地調査を行い、スタッフへのインタビュー、活動内容の観察調査を行った。また、本研究では教会における子育て支援活動としての音楽活動やベビーソングについてその特徴や意義を明らかにするため、公設公営の A-öppen förskola での実践や取り組みとの比較を行う。ここではスタッフの専門性、ベビーソングで歌われる選曲・環境構成などの実践内容を比較し検討する。

2-3 倫理的配慮

本研究では筆者勤務校における「研究活動に関する指針」および「研究倫理基準」に基づき調査研究を行った。個人が特定されるような情報は必要としないが、観察による調査では調査を始める際に施設責任者及び調査日当日の参加保護者全員に同意を得て実施した。また、活動の様子・親子の写真・動画の撮影は行わず、施設・設備等のみ撮影し、本論文や学会発表資料への写真掲載の承諾を得た。

3. 教会における Öppen förskola 活動の概観

3-1 スウェーデン教会の活動と市民生活の関係

スウェーデンは 2000 年以降、教会は国から分離され北欧で唯一国教会を持たない国となっている¹⁰⁾。スウェーデン教会は中世の頃、ローマ・カトリック教会の一部であり、現存する教会の多くはその当時に建てられたものである。それらの多くは街の中心に建設され、長く教育と医療を担ってきた¹¹⁾。その後、1860 年代の新しい法令により医療と貧困層へのケアは自治体の責任へと移行していくが、吉岡 (2020) はスウェーデン教会が公的福祉制度の枠外で、行政には対応できない、精神的・社会的な側面で子ども支援を行っていることを明らかにしている。具体的には教会教区が乳幼児期から高齢者まで、地域住民全体に広く開かれた場として、社会福

社の専門的視点をもって多くの集いの機会を設定し、課題の早期発見、予防型支援の役割を果たしている」とされる¹²⁾。

近年は国民の教会離れが進み、2023年時点ではスウェーデンの人口のうち約53%がスウェーデン教会の会員であるが¹³⁾、復活祭の日などはスウェーデンの公式の祝日となっていたり、旧暦の冬至の日に行われる教会でのルシア祭はテレビで生中継され、病院や学校、保育施設でも行われたりと、社会福祉の面だけではなくスウェーデンの文化・伝統に教会は深く影響を及ぼしている。

3-2 スウェーデン教会における子育て支援活動

スウェーデン教会は国連の子どもの権利条約に基づき、子どもの最善の利益のために働くことを宣言している¹⁴⁾。教会に属する人は減少傾向にある一方で、教会における子ども向けの活動には参加者が増加しているという。子ども向けのオープンアクティビティとしては、育児休暇中の家族へのサービス、児童から青少年期を対象とした児童合唱団やキャンプやカフェ、音楽活動など多岐にわたる。この育休中の家族を対象としたものの中に Öppen förskola が含まれるのである。

首都ストックホルムでは Öppen förskola が2023年時点で48ヶ所登録されているが、教会による運営のものは3ヶ所である¹⁵⁾。スウェーデン第二の都市であるヨーテボリ市においては37ヶ所中12ヶ所が教会の運営となっている¹⁶⁾。またマルメ市では教会による Öppen förskola はみられない（市内に Öppen förskola は9ヶ所あるが、7ヶ所はファミリーセンター内にあり、2ヶ所は民間の運営である¹⁷⁾）。このように人口の多い自治体においても、Öppen förskola として教会が登録運営しているところは多くない。その一方で多くの教会では、幼児マッサージ、ベビーソング・ベビードダンス、親子カフェ、パパカフェ、などが単独で行われている。これらは市内の大きな教会だけではなく、各小教区の小さな教会でも行われる。いずれも子ども連れの大人が自由に参加し、そこで他者と出会い、交流することが目指されている。このような活動に参加する場合、教会の会員またはキリスト教徒である必要はないため、教会に属していない者も多く参加できるような形で公開されている。

4. S教会の取り組み・実践から

4-1 S教会の概要と取り組み

本調査で対象としたS教会はA市の中心部にある最も大きい教会であり、市内を歩いているとあらゆる場所から見る事ができる美しい建物である。S教会は1620年代後半に建てられた木造の教会がそもそもの発祥であるとされるが、戦争や災害によって度々失われ、石造りのものへと建て替えられた。その後1888年に放火によって教会の一部は焼失し、煙の被害を受け翌年、再塗装され現在に至るとい¹⁸⁾。

S教会に隣接する形で「教会の家」と呼ばれる建物がある。元々この建物は学校として建てられ1892年から1968年まで使用されていたという。2005年の春、A教区がこの建物を引き継ぎ、現在、教区事務所・子どもと家族の活動・音楽と合唱団の活動・青少年の活動・成人の活動が行われている。またカフェも月・火・木・金の11時～14時まで営業されている。

教会の活動として礼拝など一般的なものの以外に、ここでは毎週火曜日にミーティングと呼ばれる集いがある。これはオープンな集まりで、参加者が共にコーヒーを飲み、歌を歌うなど交流することが目的である。また簡単なランチを食べ、会話やゲームをしたり音楽を聴いたりする集い、教区庭園でスープとサンドイッチを提供するなどの地域貢献、女性のための講演、ディスカッションを行う場もあるという。

音楽的な活動としては、5歳児の音楽遊び、1～2年生の音楽体験、3～6年生の合唱団、障害のある子どもや若者のための活動、そして12～15歳、16～18歳、19歳～25歳に分けてそれぞれ合唱団活動が行われている。低年齢の音楽遊び・音楽体験は教会音楽だけではない様々な子どもの曲が歌われるという。また合唱団でも賛美歌・ゴスペルだけではなく、ポップスなど現代音楽が歌われ、コンサートも行われている。

4-2 子育て支援の取り組みとベビーソング

S教会はA市において Öppen förskola として登録はされていないが、S教会のホームページには「子どもと家族のアクティビティ」の一つとして「開かれた教会」の案内がある。これが Öppen förskola

のような遊びの場の開放である。

この開放は基本的に0歳から förskola 入園前の親子が事前申込不要で参加することができるものであり、場所は「教会の家」において行われている。一般の Öppen förskola は原則として週に4～5日は開園しておかなければならないが、S教会での遊びの場の開放は火曜日の午後1時～3時30分の時間のみになっている。このオープン時間内にベビーソングの活動も行われるのである（午後2時30分～3時まで）。ただ、ベビーソングはこの日だけではなく別の曜日にも開催されることがあり、随時HPにてその案内が出されるという。

また同教区内にはS教会から南に2kmほど離れた場所に位置するB教会があり、その庭園でも火曜日と水曜日に同様のベビーソングが行われている。そちらは火曜日を0～8か月の子どもと保護者を対象とし、水曜日は9～18か月の子どもと保護者を対象として行われている。こちらも開催時間はいずれも10:00からの30分程度という。

① 職員

S教会の子育て支援やベビーソングに関係するスタッフは2名常駐している。Mさんは音楽専門スタッフとして、教会内の様々な音楽活動のサポートをしている。今年度は特に障害者音楽に携わっているという。förskola での勤務経験もあるとのことであった。KさんはS教会に勤めて半年であり（それまでは別の教会に勤務していた）、特に保育や学校教育に関する資格は有していないが、このシーズンからベビーソングの運営に携わっているという。

② ベビーソングのねらい

Mさんへのインタビューによると、ベビーソングの目的は親が子どものために子どもと一緒に歌を歌ったり、自分の子ども時代の歌を思い出したり、童謡や教会の歌の良さを知ってもらうことであるという。また、コミュニティ形成のきっかけとなるような集いの場を目指しているとのことであった。

特に音楽やリズム遊びを通して子どもと親の繋がりを強化する、子どもの音楽的・言語的発達、身体感覚の発達を促す、というねらいがあるという。

③ 調査当日の様子

13時から遊びの場所は利用可能となっているた

め、少しずつ親子が集まる。今年度の最初の日ということであったが、夏前から参加していたり、上の子どもと共に参加経験があったりという経験者が15組、初参加が2組であった。遊びの場（写真1）は förskola でも見るような乳幼児向けの玩具や絵本があり、自由に遊べるようになっている。保護者は子どもと遊んだり一人で遊ぶ子どもの様子を見たりしながら、親同士で会話をするのが多く見られた。ここでスタッフは全体の様子を見守り、子どもの様子を見ながら玩具や絵本を渡していた。また初めて参加する保護者とは、子どもの様子（好きな遊びや歌、家庭でどのように過ごしているか）を尋ねるなど、緩やかな形で関係性を築いている様子であった。スウェーデンは父親も育児休暇利用率も高く、この日も父親と子どもだけでの参加者が3組、父母揃っての参加も2組であった。

この日はベビーソングの参加者が普段よりも多いということで20分ほどすると遊びの場が手狭になった。そこでダイニングテーブルのあるホール（写真2）に移動し、早めのFIKA（おやつの時間）をす



写真1 遊びの部屋（筆者撮影）



写真2 FIKA ができるコミュニティ広場（筆者撮影）



写真3 ベビーソングの場（筆者撮影）

る家族もあり、それぞれ自由にベビーソングの開始までの時間を過ごしていた。

そして定刻になるとスタッフの声掛けで奥の広いホール（写真3）に移動が始まった。ホールは大きな丸いラグが敷かれており、その上に参加者全員が丸く座った。概ね参加者が集合したことを見計らいMさんがギターで「ようこそ」の歌を弾き歌いし、ベビーソングがスタートした。以下、歌われた曲と親子の様子をまとめていく。

1. Välkommen（ようこそ）

明るい雰囲気が始まり、Mさんの歌に合わせてKさんが赤ちゃんの人形を用い、揺らしたり抱っこしたりする。参加者はそれを真似ながら一緒に歌う。

2. Jag leker träd（私は木で遊ぶ：フクロウの歌）

Kさんがフクロウのパペットを片手にはめ、曲に合わせて動かす。親は子どもを膝に乗せてリズムをとりながら歌う。歌の後、Kさんが袋を持ってきて円の真ん中に行く。そしてその袋からいくつかのぬいぐるみを出して、子ども達に渡す。

3. Imse Vimse Spindel（小さな蜘蛛さん）

Kさんが袋から蜘蛛のぬいぐるみを出し、それを真ん中に置く。そしてMさんがギターを弾き始め蜘蛛の曲となる。この曲は元々指先を使う振りがついているものであり、Kさんの見本を見ながら親は子どもを抱えるように座り、子どもに見えるように手を動かしながら歌う。

4. Krokodilen i Bilen（車の中のワニ）

Kさんの動きに合わせて親子で手を伸ばして大きく動かし、ワニの口の動きを表現しながら歌う。

5. En liten båt（小さなボート）

曲名のようにボートが揺ら揺らと揺れるように、親が子どもを膝に乗せて揺らしながら歌う。

6. Smyga som en tiger（虎が忍びよる歌）

曲調がこれまでとは異なり、少し怖い雰囲気の中でKさんが虎のぬいぐるみを出して円の真ん中に置く。

7. パラバルーン

MさんとKさんがパラバルーンを出して、親子も座った状態で持ち、リズムに合わせてあげたり下げたりを繰り返す。その後全員で立ち上がり更に大きな動きを行う。

8. マラカスでのリズム遊び

参加者にマラカスを配り、それを振りながらMさんのギターに合わせて大きく振って音を出したり、小さく振ったりと強弱をつけたリズム遊びをする。

9. 終わりの歌（曲名不明）

ゆったりと静かな曲が流れ、これでベビーソングが終了であることをMさんが告げる。

予定どおり30分程の活動であったが、静と動の曲がバランスよく配置されていた。特に親子のスキンシップが図られるような振りの曲が多く選ばれ、リズムに合わせて動いたり歌ったり、パラバルーンを用いての大きな動きのある活動などもあり身体的な活動が多く見られた。また筆者がよく訪問するförskolaでも歌われている曲や、日本でも知られた曲（Imse Vimse Spindel）もあった。今回歌われていた曲は書店で市販されている『BARNKAMMAR BOKEN』（日本でも見られるボタンを押すと歌や音楽が流れてくる歌集本）にも掲載されており、スウェーデンの子育て家庭ではよく耳にするものだと思われる。

ベビーソング終了後は、そのまま帰宅する親子や、再びFIKAをする親子などそれぞれの都合に合わせた形で緩やかに流れ解散となった。保護者の方はいずれも笑顔でスタッフと会話しながら、楽しい雰囲気の中で帰られる様子が印象的であった。また、帰り際にスタッフに3歳児でも参加できる教会の音楽プログラムについて尋ねている保護者もいた。ベビーソングだけではなく様々な教会の音楽活動に興味を持つきっかけの1つとなっていることも窺えた。

5. 考察

以上、S教会のベビーソングの流れを概観してきたが、一般的な Öppen förskola とどのように違うのか、förskola との連続性の視座からその特徴について考察を行う。

5-1 公立 Öppen förskola のベビーソングとの比較から

① A-öppen förskola の概要とベビーソングの内容

A-öppen förskola はファミリーセンター内にあり、スタッフは市職員のCさんのみ（管理監督者は同地区の förskola 施設長が兼務している）であり、室内環境の構成、デイリープログラムなどもCさんが基本的に計画・運営を行っている。ベビーソングは週に2回設定されているが、新型コロナウイルスのパンデミック後の現在も予約制となり上限は10組までである。

室内はCさんが意図的・計画的に環境を構成し förskola に近い環境を整えているため、様々な遊具・用具が多い（写真4）。そのため音楽に合わせて動くことの多いベビーソングは保健センター内にあるフリースペースで行われる。ベビーソングの活動自体は教会と同じく30分程度である。調査日の参加は7組であり、うち2組は父親の参加であった。

定刻になると7組の参加者と共にフリースペースへ移動し、そこで1組ずつマットを敷き、円になって座る。親子が座って準備ができれば、Cさんの太鼓のリズムでベビーソングが始まる。まず挨拶がてらCさんはそのリズムに乗りながら子ども達の名前を親に聞いていく。次にS教会でも聞いた Imse Vimse Spindel（小さな蜘蛛さん）の歌がうたわれ、次に日本でも「グーチョキパーで何作ろう」で知ら



写真4 A-öppen förskola (筆者撮影)

れるフランスのフレール・ジャック (Frère Jacques) のスウェーデン版が歌われた。Cさんがパペットを両手にはめて、手をあげたり下げたり拍手をしたり、という動きに合わせて親も一緒に真似て歌う。そして小さなマラカスをCさんが配り、ダンスミュージックに合わせて、マラカスを振ったり、そのマラカスで子どもをくすぐったりするような歌遊びをする。

その後、室内の電気を消し星のライトをつけ、マラカスを振りながらきらきら星の歌を歌ったり、布を子どもに被せたりという遊びが続いた。最後は丸いマットに子どもだけが入り、静かな音楽に合わせてCさんがシャボン玉を吹きかけ、ベビーソングの終わりの合図としてキラキラ光る棒を子どもに見せて終了となった。

② S教会のベビーソングとの比較と考察

A-öppen förskola のベビーソングの参加者には移民の方も多くみられた。スウェーデン教会での多くの活動は信心を問わず参加可能な開かれたものであるが、室内には十字架や聖書が置かれていることもあり、それらに抵抗を感じる移民の保護者も少なからずあるだろう。また Öppen förskola は近年移民の保護者に対するサポートの強化のため「言語カフェ」などを行っている¹⁹⁾。A-öppen förskola も週に1度は「言語カフェ」の時間を設けていることから、何度も言語カフェに参加している保護者にとってはこちらのベビーソングが親しみやすいという点もあると考えられる（教会でも言語カフェを行っているところも多いが、今回調査を行ったS教会では行われていない）。

A-öppen förskola のベビーソングではCさんがマラカスや太鼓などの簡易な楽器を用いての歌や、スピーカーから音源を流し利用することが多いが、S教会のベビーソングは基本的にMさんによるギター伴奏があった。S教会のホールは広く参加者も多いため、楽器による伴奏があることによって多くの参加者がより曲やリズムを楽しめるように感じられる。いずれのベビーソングも一事例での比較であるため一般化されるものではないがA市以外のスウェーデン教会のSNS (Facebook・Instagram) を見ると、ベビーソングの様子やスタッフによる呼びかけの動画が上がっており、そこではギターを用いた歌遊びや、様々なリズム遊びの様子を見ること

ができる。本調査ではMさんの音楽技術の高さや経験の豊かさが伺えたが、他の教会においてもベビーソングに携わるスタッフはMさんのような専門性を有していることが推測できるものである。

しかしながらベビーソングの取り組みや選曲、リズム遊びなど活動自体に大きな差は見られない。同じく北欧のノルウェーで乳児期の親子を対象にした音楽活動を調査した持田（2013）は、親と子どもが身体を通して音楽を共有する身体性が重要な意味を持つと明らかにしている²⁰⁾。S教会のベビーソングでもA-öppen förskolaでも親が子にマッサージをしたり、抱っこで揺らしたり、という身体的な活動も共通するものであった。

5-2 förskola への繋がり の視点から

先に述べたとおりスウェーデンの förskola には1歳児～2歳児の間に90%に近い子どもが入園する。そこでベビーソングの活動がどのように förskola と繋がりを持つのかについて検討し、教会におけるベビーソングの特徴を考察する。

① 就学前学校カリキュラムについて

Läroplan för förskolan（就学前学校カリキュラム：2018に改訂されており、一般的にLpfö18と表記される）では、歌・音楽・ダンス、創作や様々な美的表現形式の経験や、創造・表現し伝えるというコミュニケーションが重要とされている²¹⁾。このような点は日本の幼稚園教育要領や保育所保育指針等の5領域「表現」のねらいに近い部分である。ただ日本の保育施設においては保育者主導による音楽活動が中心となっている園もみられるが、スウェーデンの förskola ではクラスの子ども達が集まって歌を歌うという場面は多くない。サムリング（集まり）の中でその日の遊びや季節と関連するものが時々歌われたり、子ども用動画サイトをスクリーンに投影しその音楽に合わせて歌ったり踊ったりという活動は見られたものの、基本的に保育者によるピアノやギター伴奏で毎日歌う、という形式はほとんどないのである。深谷らの研究（深谷・安倍・柴田2023）では現地 förskola で勤務した日本人にインタビューを行っているが、日本のような音楽活動の位置付けではなかったことが報告されている²²⁾。しかし、筆者の inskolning（入園時移行期保育）における研究調査では、inskolning 期間や1歳～2歳児

クラスなどでは、伝統的な子どもの歌など簡易な曲が頻繁にクラスで歌われていることを確認している²³⁾。

日本の保育所保育指針・認定こども園教育保育要領では3歳未満児とそれ以上の年齢で「ねらい」や「内容」を分けて示しているが、Lpfö18ではそのような区分はない。そこでLpfö18に基づいて1～3歳児に特化した保育者の役割を Camill ら（2020）が示した中で音楽と関連する項目として挙げられた点は下記の通りである²⁴⁾。

- A-歌や音楽に対して前向きな姿勢を持つこと
- B-子どもたちに音楽素材へのアクセスを提供する
- C-子どもたちと一緒に、子どもたちのために歌うこと
- D-子どもたちと一緒に音楽を作る
- E-子どもたち自身の歌や音楽を聞いてそれに反応する
- F-子どもが好きなだけ歌や音楽を繰り返す
- G-調和のとれた環境を作り出すため具体的な素材を用いて曲を説明する
- H-動き、歌、音楽を組み合わせる
- I-子どもたちの個性的な表現を可能にするために日常生活の補助として歌を使うこと

特に inskolning の初日～3日目ぐらいは保護者と子どもと一緒に förskola で過ごす、その際のサムリングで歌う時にはベビーソングで見られたように保護者も交え皆で輪になって座り、ワニの歌やウサギの歌などが歌われていた。選曲や歌う順番は袋に入れてある木板を子どもが袋に手を入れ自分で選び、その木板に描かれた動物などにちなんだ歌を皆で歌う、という流れであった²⁵⁾。その様子は確かに上記BやDのように、保育者主導であるのではなく、子どもと共に音楽を楽しむという姿であると言える。この inskolning 期間だけではないが、年少児クラスではFにあるように子どもの生活・遊び・身近な生き物に関する同じような曲が繰り返されることが多くある。

② 考察

前項で示された förskola における音楽的活動はA-öppen förskola やS教会のベビーソングと重なる部分であると言える。A-öppen förskola は förskola と同じ教育部局の管轄であり²⁶⁾、förskola に近い環境作りを意識していることはあるが、S教会は当然ながらその系統には位置していない。しかしS教会でのベビーソングで歌われる曲のいくつか

は förskola でもよく聞く曲であり、前項①の A～C はもちろん、H－動き、歌、音楽を組み合わせるといふ点においてはスタッフ M さんのインタビューにもあったように、身体感覚の発達を促すことをねらいとして専門性を活かした取り組みが行われていた。またスウェーデンの förskola では保育中ほとんどの保育者が楽器を用いないため（稀にギターやウクレレを用いる保育者もいるが、現在の保育者養成において楽器の習得は必修単位化されていない）、A-öppen förskola のベビーソングは förskola での歌の活動により近い雰囲気であるとも言える。

多くの förskola では12月にロシア祭が行われるが、子ども達は聖ルシアや星の精、ジンジャーブレッダー人形などに扮して、サンタルチアなどロシアに関する曲やクリスマスソングを歌う。ロシア祭で歌われる曲は非常に多く、保護者を前にそれらの曲を披露することがあるが、声を合わせた合唱の巧み・成果を発表するようなものではなく、ロシア祭を彩る一つのものとして歌があるという形である。筆者の調査（吉次 2017）では子ども達の歌や合唱というのは教会での聖歌隊などで行われるものという意識が通底にあり、förskola での音楽は成長を促すもの・披露するものと捉えられていないことが示唆された²⁷⁾。

このような förskola での音楽活動や取り組みを鑑みたと考察すると、一見 Öppen förskola と教会のベビーソングの活動は同じようにみられるが、基盤となるもの、そしてその接続先が異なるということが考えられる。つまり Öppen förskola においては förskola と同じ教育部局管轄であることを背景に、förskola へと繋がるという視点からもスタッフに音楽の専門性や楽器の演奏技術が求められることはなく、高度な音楽活動である必要はない。一方教会におけるベビーソングでは教会音楽を土台に、幼児や児童等の教会音楽活動（合唱団・聖歌隊など）との接点を有する形になっていると言えるだろう。

6. まとめ

近年 YouTube など子ども音楽は家庭でも簡単に視聴することができるようになり、förskola でもスクリーンに投影し歌やダンスをする姿も見られる。本研究ではこのような時代において教会における「ベビーソング」の取り組みがどのように行われ、Öppen förskola での実践と何が異なるのかを探るも

のであった。S 教会のようにギターの演奏に加え、音楽を専門・得意とするスタッフによって行われるベビーソングの意義は、生の音楽に触れ、親子がスキンシップをとることのできる時間を家庭とは異なる場で味わうことである。スウェーデン教会は市民の生活に身近なものであり、教会で行われるこのベビーソングが Öppen förskola と共に子育て期の親を支え、子育てを楽しむための一助となっていることが伺えた。

そして教会によるベビーソングは「教会での音楽」というものを更に身近に感じていくきっかけともなる。我が国の就学前保育の場では子どもの音楽活動を重視し、遊びとしてではなく披露するものとして合唱や合奏を行うところも未だ多くみられるが、スウェーデンでは Öppen förskola や教会でのベビーソングを起点に、音楽活動の役割が förskola と教会で棲み分けられていくのではないかということも本研究から示唆された点である。

しかしスウェーデンの一つの都市における一事例での比較であり、十分な事例の収集と分析まで至ることが出来なかった。今後は保護者へのインタビュー及び子どもの表情分析も行い、音楽的な専門見地からの検証も必要であると考えられる。

謝辞

スウェーデン調査の際にコーディネートおよび通訳・資料翻訳をお世話になった久山葉子様には、多大なご配慮をいただきました。深く感謝申し上げます。また、本研究にご協力くださった S 教会及び A-öppen förskola のスタッフの皆様をはじめ、保護者の皆様に改めて心より御礼申し上げます。

【註】

- 1) こども家庭庁 (2023) 地域子育て支援拠点事業について。
<https://www.cfa.go.jp/policies/kosodatehshien/shien-kyoten/> (情報取得2023/12/15)
- 2) NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 (2023) ひろば全協のパンフレット。
https://kosodatehiroba.com/new_files/pdf/pamphlet.pdf (情報取得2023/12/15)
- 3) 中村礼香・丸田愛子 (2017) 子育て支援講座における音楽遊びの実践。南九州地域科学研究所所報, 33, 65-72.
- 4) 吉次豊見 (印刷中) スウェーデンにおける Öppen förskola と förskola の接続に関する研究—家庭から就学前学校への移行を支える視点から—。保育学研究,

- 62(1).
- 5) 同上
- 6) Svenska kyrkan (2022) *Kyrkans öppna förskola*.
<https://www.svenskakyrkan.se/oppen-forskola>
(情報取得2023/5/2)
- 7) 前掲 4)
- 8) 泉千勢 (2001) スウェーデンの地域子育て支援センター：Öppen Förskola (在宅親子の保育室) の活動. 社会問題研究, 51(1・2), 291-312.
- 9) 大谷由紀子 (2007) 海外事情 スウェーデンにおける乳幼児のいる子育て家庭支援—オープンプレスクールの役割. 住宅会議, 70, 34-38.
- 10) Swedish Institute (2023) Religion in Sweden.
<https://sweden.se/life/society/religion-in-sweden>
(情報取得2023/12/15)
- 11) Svenska kyrkan (2023) Svenska kyrkans historia.
<https://www.svenskakyrkan.se/historik>
(情報取得2023/12/5)
- 12) 吉岡洋子 (2020) スウェーデンにおける地域での子ども支援に関する研究—スウェーデン教会の福祉事業が生み出す繋がりに着目して—. 北ヨーロッパ研究, 16, 115-122.
- 13) 前掲10)
- 14) Svenska kyrkan (2023) Barnkonsekvensanalys.
<https://www.svenskakyrkan.se/barnkonsekvensanalys>
(情報取得2023/12/5)
- 15) Stockholm stad (2023) Öppen förskola.
<https://forskola.stockholm/oppen-forskola/>
(情報取得2023/12/5)
- 16) Göteborg stad (2023) Hitta öppen förskola.
<https://goteborg.se/wps/portal/start/forskola-och-utbildning/forskola-och-pedagogisk-omsorg/oppen-forskola> (情報取得2023/12/5)
- 17) Malmö stad (2023) Öppen förskola.
<https://malmo.se/Bo-och-leva/Utbildning-och-forskola/Forskola/Forskolor-och-pedagogisk-omsorg/Oppna-forskolor.html> (情報取得2023/12/5)
- 18) Svenska kyrkan (2023) Sundsvalls församling.
<https://www.svenskakyrkan.se/sundsvall>
(情報取得2023/12/5)
- 19) Sveriges kommuner och Regioner (2019) *Öppen förskola öppnar många dörrar*. Sveriges kommuner och Regioner.
- 20) 持田葉子 (2013) 乳児期の親子のための音楽活動について：ノルウェーにおける音楽活動プログラムの一例. 聖和論集, 41, 21-26.
- 21) Skolverket (2018) *Läroplan för förskolan*. Skolverket.
- 22) 深谷悠里絵・安部高太朗・柴田卓 (2023) デンマークとスウェーデンの就学前教育における音楽活動の位置づけ：ナショナルカリキュラム及びインタビュー調査からの一考察. 郡山女子大学紀要, 59, 209-218.
- 23) 吉次豊見 (2020) スウェーデンの就学前学校 förskola における inskolning とは：「慣らし保育」という概念からの転換. 保育学研究, 58(2・3), 339-350.
- 24) Camilla Carlberg, Ann Granberg, Helena Lindfors (2020) *De yngsta barnens egen läroplan: Lpfö 18 utifrån 1-3 åringars behov och perspekti*. Liberi förlag.
- 25) 前掲23)
- 26) Riksdagen (2010) *Skollag (2010 : 800)*.
https://www.riksdagen.se/sv/dokument-lagar/dokument/svensk-forfattningssamling/skollag-2010800_sfs-2010-800 (情報取得2023/12/15)
- 27) 吉次豊見 (2017) 遊びの質的転換と学びの芽生えを促す保育のあり方：スウェーデンの保育実践から. 湊川短期大学紀要, 53, 41-48.